

2. 鉄筋の品質

鉄筋の品質は JIS G 3112（鉄筋コンクリート用棒鋼）または JIS G 3117（鉄筋コンクリート用再生棒鋼）のうち SD295A、SD345 または SDR295 の異形鉄筋で、D10 及び D13 を用いる。

10

－ 配筋 － ブロック塀の配筋（規準 5 条）

1. 壁体の配筋

- 縦筋の間隔は、表 5 の数値以下とする。
- 横筋の間隔は、80cm 以下（通常は 60cm）とする。

表 5 縦筋の間隔 (単位：cm)

控壁 ・ 控柱	ブロック塀の高さ	補強ブロック塀		
		空洞ブロックのとき 縦筋の間隔	化粧ブロックのとき	
			ブロックの長さ	縦筋の間隔
あり	160 以下	80	40、50、60	60
			90	45(90)
	160 を超え220 以下	40	40、50、60	60
			90	45(90)
なし	120 以下	80	40、50、60	60
			90	45(90)
	120 を超え160 以下	40(80)	40、50、60	40(60)
			90	(45)

注：（）内の数字は D13 を使ったときの間隔

2. 横筋の配置

- 横筋は基本形横筋ブロックの溝部に配置し、鉄筋の末端は控壁などに定着をさせる。定着ができない場合は、端部縦筋にかぎ掛けをさせる。
- 壁頂部には必ず横筋を配置する。

3. 縦筋の配置

- 縦筋は、基礎に 40d 以上定着をさせて壁頂部まで 1 本で立ち上げる。
これは溶接（溶接長さは片側 10d 以上、両側 5d 以上）をする場合を除き、壁体内での重ね継ぎ手を禁止していることから規定されている。
- 縦筋は、壁頂部の横筋に 180°フック(余長 4d 以上)でかぎ掛けするか、90°フック(余長 10d 以上)で添える。
- 塀端部の縦筋は、塀の高さ 1.8m 以下では D10 を、1.8m を超える場合は D13 とする。
- 塀交差部の縦筋は、D13 以上とする。

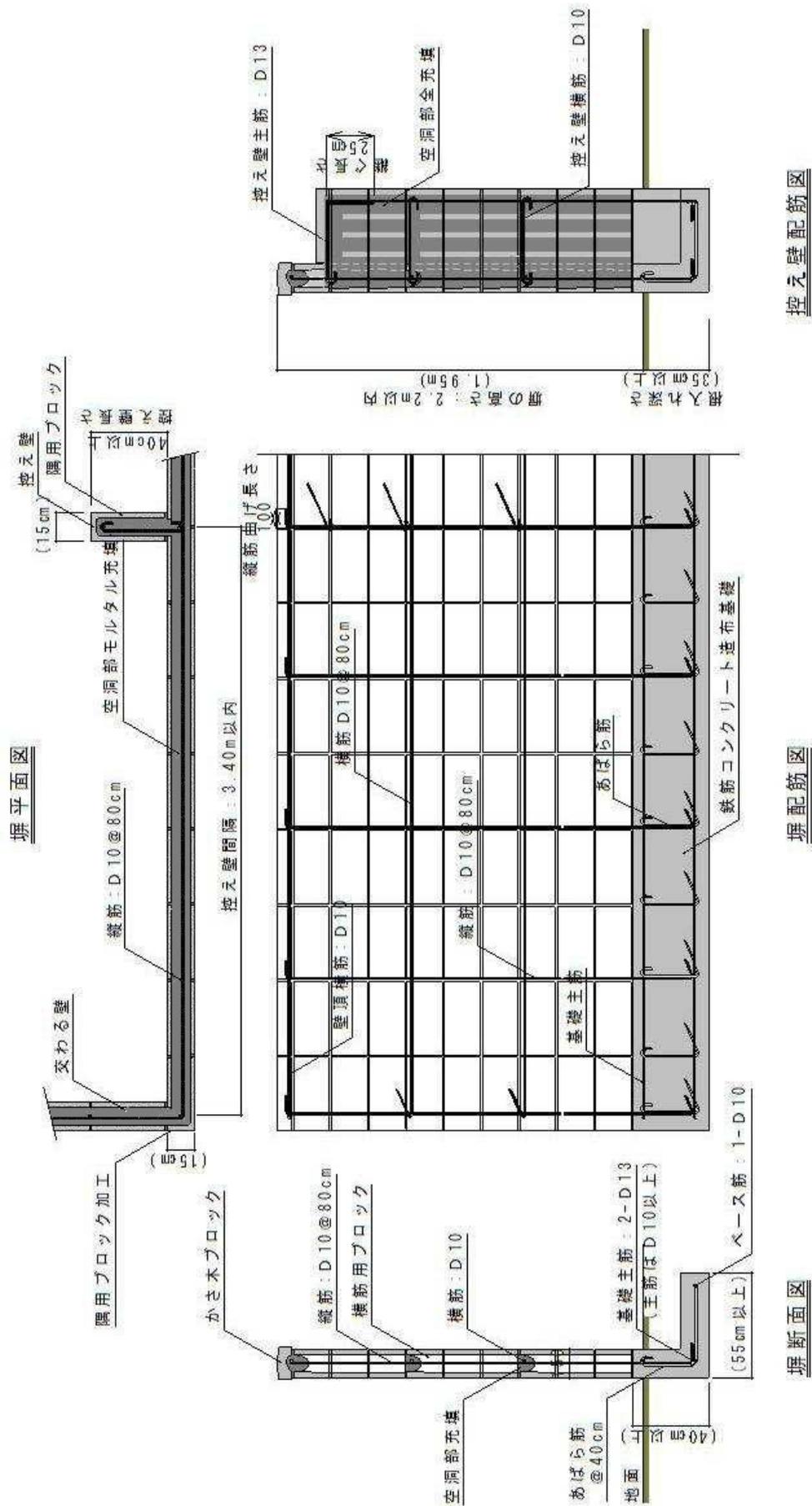


図5 ブロック塀の配筋の一例

(全段基本型横筋ブロックを用いる場合は、横筋が配置されない部分の水平溝にはモルタルを充填すること)